

＜今日の説教のポイント ヨハネによる福音書 18章 1-11節＞

出来事が持つ意味を伝えようとするヨハネ。この出来事では？

1 イエス様が場面を支配しておられたことを伝えようとしている

イエス様が逮捕される場面ですが、ヨハネは、「**イエスはご自分の身に起こることを何もかも知っておられ**」(4)と記し、逮捕されたことはイエス様にとっては理不尽な流されるままに身を委ねるしかなかった受け身の出来事ではなく、むしろイエス様が主体的、能動的にかかわろうとされた出来事なのだ、と伝えようとしています。イエス様がこの場面全体を支配しておられると感じるのもそのためです。だとすると、次に考えなければならないことは、イエス様はそんな態度をなぜ取れたのか、この出来事は何のためになされたのかです。

2 「わたしである」が三度も繰り返されていることの意味

ヨハネが、三度も「**わたしである**」(5,6,8)と記していること、そして、イエス様が「**わたしである**」と示された時に「**彼らは後ずさいして、地に倒れた**」(6)と記していることに注目です。これを理解するために大事なことがあります。「**わたしである:I am**」は、聖書の神様が初めてモーセにご自身の名を示された時に神様が示された表現「**私はある**」(出エジプト記 3:14-15)と同じなのです(ヨハネ福音書 8:24, 28, 58 でイエス様も!)。つまりヨハネは、イエス様が父なる神様と一つのお方であり、神様の御旨を人々に告げるために来られたお方なのだと言おうとしているのです。したがって、「**地に打ち倒された**」でヨハネは、本当はイエス様を捕らえるなんて、神様への恐れを覚えなければならない行為なのだ、と言おうとしているのです。その通りですね。私たちも気づかないで同じことをしているのではないのでしょうか。実際に打ち倒されないのはただ神様の憐みによるのだということを考えさせられます。

3 「父がお与えになった杯は飲むべきではないか」から考える

ペトロを諷められたところで初めてイエス様が「**父が**」(11)と語られています。カルヴァンはここで、「ペトロが感情の高まりを押さえ切れずに武器を取って人を傷つけたことはイエス様が止められており、しかも神様の御旨を考慮しなかった行為でもあり、全世界の人が喝采したとしても神様には認められない、私たちも注意しよう」と言っています。私たちも神様の前に謙虚になっているか、考えさせられます。